

# 高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報  
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一  
京都市中京区木屋町通三条上ル  
電話 (〇七五) 二二二二・二八二八  
弊NPOは「憲法を改正、経済力と軍事力の両面で健全な国体を支える国家」を求めます。

## 《百井の里 とり幸》

東京都744-2252

久し振りに訪問しました。十名以上で出町柳まで送迎いただけます。36年前に故人納傳中恩師にご紹介、自宅居間で開業、その後本格的な鳥料理屋さんになりました。大原との標高差は約300mだそうです。

「お店でお出ししている鶏は全て平飼いで自家育成しております。人里離れた山の麓で湧き水を飲み草をついばみ、土の上を元気に走り回っています。白と黒の羽が特徴的な横班ブリモスロックという品種は肉質が最高と言われています。噛み応えがあり、噛む度に肉汁と油が口内に広がります。今まで鶏が嫌いだったという方にも、是非お試し頂きたい自慢の鶏です。」と拘りの説明。大原の里に卵と鳥精肉を出品、毎日ほぼ午後一時には完売するそうです。全員が満足！ご馳走様でした。

## 京都国立近代美術館

11月16日～1月16日

《上野リチ ウィーンからきたデザイン・ファンタジー》  
ウィーンと京都で活躍したデザイナー・上野リチ・リッタスの世界初の回顧展を開催します。

芸術爛熟期のウィーンに生まれたリチはウィーン工房の一員として活躍し、日本人建築家・上野伊三郎との結婚を機に京都に移り住みます。戦前はウィーンと京都を行き来しながら、壁紙やテキスタイルなどの日用品や室内装飾など多彩なデザインを手がけました。戦後は夫婦ともに京都市立芸術大学で教鞭をとり、後にはインストアクト美術学校を設立して、後進の育成にも尽力しました。

本展では当館所蔵作品に加え、国内外の機関からリチそして関連作家の作品を招来し、色彩豊かな魅力あふれるリチのデザイン世界の全貌を明らかにしました。

## 《政治の基本》

常葉臺住職 今小路覚真

選挙間近になると、人々の口に登るのが、「野党は政権の反対ばかりで、具体的な政策は何もない」という言葉です。  
政治の基本は、国民から頂戴した税金をいかに上手に配分し、還元するかです。その権限は多くが与党に与えられています。

現実には野党がいくら正当な欲求をしても、そのほとんどは議論すらされることなく消されていってしまいます。しかし、選挙で当選するためには有効であれば、弱者の立ち場に立った種々の社会保障などを、まるで自らの発案であったかのように与党側は示してきます。  
さらにこうした政策も与党であれば実行に移すことも容易です。さらに今ある政策だけに止まっていれば、税金の使い道は限定されてしまいます。それでは困るので、次々と目先を変えて税金を使っていくのが与党です。

## 宗教法人花鳥寺 土口哲光住職の説法

### 《一瞬の長さのいのち》

阿吽(あ・うん)は、仁王さんや狛犬の口に見られ、古代インドの文字の梵字から発祥した。阿吽の呼吸という間がある。阿は口が開いて出す最初の音で、吽は口を閉じて出す最後の音である。阿吽の呼吸は、釈迦の説法にもあつて「人のいのちの長さは、阿という吐く息、吽という吸う息の間で、一瞬の長さしかない。どちらかが途切れたらいのちは終わる」と。まるで朝露を掌にのせると、指の間からポロリとこぼれ落ちるような刹那である。念仏三昧の一遍上人も、その教えのなかに「一息生死」を説かれ、「吐く息は死である。吸う息は生である」と。怒り、貪り、妬みなどの三毒の煩惱を吐き捨てて唯ひたすらに「南無阿弥陀仏」を唱えて全国を遊行した。

## 季節の家庭料理

田村真紀

### 《十一月 スペアリブと大根の煮込み》

《作り方・四人分》

豚スペアリブ五百グラム・大根五百グラム・茹で卵四個・生姜一かけ(薄切り)・☆(醤油、酒各大匙三・みりん大匙二、砂糖大匙一)・ゴマ油適量  
大根は四センチ位の厚さに切り皮を剥き、面取りをする。味がしみやすいよう片面に十字に一センチ位の切込みを入れる。スペアリブは骨と肉の間に軽く切込みを入れ全体に塩胡椒する。フライパンにゴマ油をなじませ中火にかけ、肉の全面にこんがり焼き色をつけたら取り出し、大根も両面に焼き色を付ける。肉、大根、ゆで卵、生姜を厚手の鍋に入れ水をかぶるくらい注ぎ中火にかける。沸騰したら灰汁をとり☆の調味料を入れ、煮汁が減り肉が柔らかくなるまで約一時間弱火で煮込む。

## つれづれの記

山崎辰巳

### 《ポンポンと呼んだ白い粉》

心地よく深みゆく清秋に、世情を憂う話も場違いと思ひ、今回は平凡な二市民の暮らしの想い出・断片レポートを：  
この夏の昼下がりがり、不要不急の外出禁止に従い、家にこもり持て余した運動不足の体をほぐし、気晴らしするために、近場を少々々のタウン・ウォッチングに出かけた。  
立ち寄ったドラッグストアの子ども医薬品コーナーで、体が覚えていたシッカロールを見つけ、別の子供でなくて大人でも、汗ばむ季節はこれが一番と即断し、買って帰った。  
そして風呂上がりになり、肌ざわり爽やかにまぶして体を軽く叩くと、肌ざわり爽やかに芳香が鼻腔を走りぬけた。小学生の頃、行水で汗が埃まみれの体を洗って流してくれた母が、「さあポンポンやでえ！」と白い粉のパフを私の体に摺りつける、優しい微笑が甦った。